

## 綜合的地理的地域決定法 (下)

小 牧 實 繁 抄 譯

此の自然的<sup>ナチュラレル・レギオン</sup>地域なるものの理念の中には多くの<sup>フィジカル・ラジカール・アクター</sup>自然的要因が結合せられてあるのであるが、この理念は地理學に於ける一層の進歩を劃したものであり、而して地理的地域なるものの更らに綜合的なる研究への方向を指示するものである。稍これに相似た區分が比較的<sup>プロポーション</sup>小地積に就いてなされた。デヴィス教授の「國際地理學」(Davis, The international geography)に於ける合衆國の研究の如きその著しいものであり又、佛蘭西も多くの地理學者によつて幾つかの地域に區分せられたが、その仕事の總括せられたものがフェーヴル及びオーゼーの「佛蘭西の地域と國土」(Fevre et Hauser, Regions et pays de France, Paris 1909)である。自然的<sup>ナチュラレル</sup>

若しくは自然的<sup>フィジカル</sup>地域なるものは、常にその意義を有たなければならぬが、地理的地域なるものは確かに更に大なる價值を有するものであることが將來に於いて證せられるであらう。

地圖の依つて以つて得られなければならない手續は、併しながら、可なり變化せられなければならない。著者は次の如き方法を暗示しようと思ふ。即ち作業は小なる地域(small district)より始められ次第に大なる地域(large region)に及ぼさるべきである。全體としての世界を區分して仕舞ふことより始められてはならない。而して、各小地域に於いては、調査は、既に地質學者によつてなされた如き特殊の研究からも助力を得ること勿論であるが、併しながら、地

質學者によつてなされた如き特殊の研究からも助力を得ること勿論であるが、併しながら、地

形丈けでなく、土壤の條件、鑛床などまで注意しながら、起伏、構造などを考慮の中に含まなければならぬ。又、此の調査は或る程度迄、等温線の及び等降雨量線の表現法を利用しつゝ、而して、又た或る程度迄、自然及び耕作植物の特殊の結合社會(Association)を可能ならしめるに於いての氣候的要因の綜合的效果を注意しながら、氣候をも考慮の中に包含しなければならぬ。又、此の調査は、獨立の重要性を有する要因として、自然的植被が人類の作用によつて變形せられなかつた場所の地表の自然的植物被覆を考察しなければならぬ。而して、此の自然植被が人類の作用によつて變形せられた所にあつては、人工的牧場の分布及びその比較的の重要性、又、小麥とか米とか棉とかの收穫の分布及びその比較的の重要性が考慮の中に入れられなければならぬ。

あらゆる種類の工業が考察せられなければならない。而して、それは出来る丈け集團グループに於い

て考察せられなければならない。何となれば植物社會(Plant association)が植物科學の一分科の特殊の主題となつたと正に同じく、工業的社會(industrial association)の特徴及び相互關係は經濟的科學の一の主題となるであらうから。此の工業的社會の研究は經濟活動のあらゆる形態、即ち個別的中心間の運搬と交通手段までを含むべきである。これは經濟地理學の研究者にとつて豊かな結果を齎す研究領野であることを約束し、而して、地理的地域の編纂者に對して最大の奉仕をなす所の經濟地域(economic region)の地圖を供することとなるであらう。

人口密度は重要な現象である。それは、自然的及び人文的兩方面の、多くの結合せられたる要因の微妙なる指標インディケータである。それは多くの經濟的及び社會的問題の基本であり、その地域の生産能力(productive capacity)に従つてその地域の政治的重要性の一の表現であるから、それは、それ自體に於いて大なる興味を興へるもの

である。

從來用ひられた地域區劃の方法は經濟的條件に影響する自然的條件を考慮の中に入れたものであつたが、それは直接的にも間接的にも、何等住民の政治的、言語的、人種的若しくは宗教的親和を考慮しないものであつた。併しながらこれ等の親和は、如何なる場合に於いても、どうしても重要なものである。これ等の親和は經濟的條件に影響する位にも著しいものであり又、一地域の利用若しくは不利用を決定しさせるであらう。例へば、北部オーストラリアに於いては、白人濠州 (White Australia) の政策が、有色人種の勞働の助けをだに藉らば大なる生産の可能なるべき地域の經濟的發展を事實上禁じてゐるのである。他の場合に於いては、此等の親和は二地域間の分化を決定するに於いて自然的の要因を補強するであらう。又、更に多くの場合に於いては、そこに於いては氣候的要素が決定的のものであるが、併し、鋭い區劃線

よりも寧ろ漸移的なる推移を呈する如き地域間の境界の正確なる位置を決定するであらう。それ故、政治的、言語的、人種的、宗教的要素はこの調査の中に含まれなければならぬ。著者の意見によれば、政治的區分には、地理的地域に關する決定に於いて、正當なる重要さが與へらるべきであると思ふ。併しながら、このことは、勿論、政治的なる州とか國とか帝國とかが吾々の地理的單元 (unit) であるべく、政治的區分が唯一の決定的要因として採らるべきであると斷言することではない。時としては、偶然的に、政治的單元が研究のための便宜的なる地域となつていい如き場合も起り得る。併しながら、このことを一般的規則とすることの背理なることは、今日、共に、オーストラリア・ハンガリー國に結びつけられてゐる、自然的、經濟的、及び人種的などあらゆる種類の異なる而して屢々調和せざる單元の聚塊を考へれば明らかとなるであらう。

特殊の地域の包括的調査の行はれた後に、その地域の優越的特徴が或る自然的條件である如き場合が現はれるであらう。即ち、森林ある山地に於いては、起伏とか氣候とか自然植生とかがよく特色を示し、且、それ等相互の關係が密接であり、而して、地理的の見地よりすれば、その地域の自然的條件の上にも又た他の地域の人生の上にも僅かの影響をしか有しないその僅少の人口よりも、更に重要なるものである。併しながら、他の地域に於いては、人文的要因が優越的である。即ち、礦物資源と交通の容易性とを有する低地に於いては、稠密なる人口が建造物や交通手段物やを以てその地域の多くを被ふであらうし、又、自然植生を破壊し、地表を自らの目的のために利用し若しくは變化しさへするであらうし、又、その變化性ある氣候條件に容易に適應するであらうし、かくて他の諸地域の發展を決定する所の經濟的活動及び政治的勢力の中心を形成するであらう。この第一の場

合に於いては、自然的條件が地域の特徴的相貌として特に注意せられるであらうし、第二の場合に於いては、主として、經濟的及び政治的要因の上に注意が集中せられるであらう。

地域の一般的特徴が確められたならば、次には、どの邊まで、即ち地積の如何なる擴がり迄がその地域の中に含まれるかの問題が起るのであらう。此の地積の擴がりには、各方面に、何處までその國土が同様の一般的特徴を帯び續けるかを發見することによつて決定せられるであらう。それ故に、地域區劃の特殊の方法は、各地域の特殊の特徴如何に依據するであらう。上に述べた第一の場合、即ち森林を有する高地の場合に於いては、起伏なるものが恐らくその地域の大きな部分に亘つて決定要因となるであらう。山嶽の斜面が低い山麓丘陵に低下する所に於いては、その地域の特徴は變化し、そこに境界線が引かれるであらう。その地域の他の部分に於いては、溫度が低く、降雨が少くなるために森林

がその特徴を變じ若しくは僅少となるであらうことが可能である。そこに於いては植生地圖若しくは植被の叙述が境界決定に利用せられる。

第二の場合、即ち商工業地域の場合に於いては人口密度が標識としてとられ、而して、境界は地圖上に示された如きこの人口密度の顯著なる減少の位置(急變線)と一致するであらう。

更に、農業地域の場合に於いては、主要作物の生産が恐らく一の手引として役立つであらう。

例へば、合衆國の中央平原に於いては、北部より南部への推移が甚だ漸移的であるがそれにも拘らず重要である。所で、何等かの特殊の等温線若しくは等降雨量線を境界として選擇して見ても、それは全く任意的のものとなるであらう。然るに、小麦、玉蜀黍、棉などの重要作物の各の生産を示す合衆國勢調査地圖の諸圖幅は地域の區分に對する、より確實なる根據を與へるのである。何となれば、小麦、玉蜀黍及び棉が各々卓越する各地域間に境界線が引かれ得るか

らである。これ等の區分は、特殊の作物が多量に得られる地域を指示するのみならず、又、種々なる作物の收穫を有利ならしめる複雑なる氣候的條件と對應するものであり、それ故、特殊の農業形態の、一部分は原因でもあり一部分は結果でもある所の經濟的及び社會的條件とも對應するのである。此の最後の點は、合衆國に於ける棉の栽培と黑人勞働力の使用との間の周知の結合——多くの社會的政治的結果を有する兩者間の結合——によつてよく説明せられる。

特殊の地域の境界が暫定的に引かれたならば此の地域に隣る諸地域が同様に取扱はれ、それ等の特徴が決定せられ、それ等の限界が規定せられるであらう。而して、境界線の一方に於いて、一の標識、例へば、特殊の作物の生産する標識がとられ、他の一方に於いては他の標識、例へば、起伏とか人口密度とかに於ける變化の如きものが使用せられた如き場合には、再考察が必要となるであらう。而して境界の位置は、

めつたに、完全に決定的ではないであらう。何となれば、急激なる而して決定的なる變化なるものはめつたに起らないからである。併しながら、再考察は區劃の價値を増加せしめるであらう。屢々、現實の境界が究極に於いて起伏(高さ、傾斜、向)とか土壤の條件とか鑛床の存否とかなどの地質的要因に依存するといふことが發見せられるであらう。何となれば、これ等のものは、甚だしく徐々に變化する氣候的要因よりも遙かに屢々、現象の精密なる分布を決定するからである。

可なりの限度まで、地域の特徴は量的(quantitative)に表現せられ得る。而して、それが可能である場合には、實際、量的に表現せられなければならない。例へば、地域の境界が劃せられたならば、氣候的條件の再吟味がなされ、而して、氣溫は年及び季節的平均氣溫、特殊の時期の蓄積氣溫若しくは内陸水(inland water)開閉の平均期日若しくは初霜現出の平均期日など

の如き數的形式に於いて表現せられていいであらう。その表現の特殊の形式は各地域の特異なる特徴如何に依據するであらう。更に、種々なる生産は、資料の存在する場合には、統計的に能ふる限り面積との割合に於いて表現せらるべきである。何となれば、多くの地域に於いて、農業的、鑛業的、及び工業的生産に關する數字が利用せられ得、而して、此等の數字に尙ほ交通網の稠密度(closeness)及び商業額を示す他の數字が附加せられるであらうから。人口密度は普通、比較的僅少なる誤差の範圍に於いて量的に表現せられ得る。

問題の凡ての地域が考察せられてしまひ、而して齊一的小地域(district)がその本質的特徴の記録を以て決定せられた後に、此等第一次の地理的單元はそれに近接する他の地理的單元と組合はされ、而して第二次の地理的單元たる更に大なる地域(area)が得られるであらう。この第二次の地域は必然的に齊一性を小にするが、

それでも多くの共通なる特相を有するものである。或る場合に於いては、隣接する地域の組合はせがなざるべきか、なざるべきでないかを決定するに於いて大なる困難はないであらう。合衆國の中央平原の場合に於いて、小麥及び玉蜀黍の栽培が各々卓越する兩地域は、共に農業的類型のものであり、同様の氣候を有し、而して多くの共通の特徴を有する適度に稠密なる人口を支持するので、兩者結合せられてもいいであらうが、併しながら、判然と棉作地域であるところのものは、恐らく、この第二次の同一地域中には包含せられないであらう。概して、地域——その精密なる區劃が最初の調査の間に於いて最も大なる困難を呈した所の地域——を結合することには大なる躊躇が伴はないであらう。何となれば、その困難を惹起した所の僅かなる而して漸移的なる推移は一面、廣く相似を指示するものであらうからである。

恐らく、仕事の此の部分に於いて最も重大な

る問題が、例へば地質的偏形 (deformation) の地域に於いて發見せられる如き著しい構造の差異が、その組成 (composition) 及び起伏に於いて相互に異なる或る岩石の反覆の露頭を惹起する如き所に於いて起るであらう。かくて、例へば英國や獨乙などの或る限られたる地域の中に於いては、農業的低地域が、牧畜的の、森林ある若しくは森林なき、而して得て大なる經濟的重要性を有する鑛床を伴ふ高地と交互する。この場合に於いては、組合はされたる地域は比較的複雑なる特徴を有するものとして注意せらるべく、而して、それが一の單元として取扱はるべき要請は、ユニタリティー 齊一性の上にはなく、或る決定的要素の特色ある組合はせの上に根據を有するであらう。

尚ほ一の問題が、本質的に地質學上の舊圍層 (outlier) 若しくは新圍層 (inlier) である所の地域が、それ等のものを含む所のより大なる地域の齊一性を破る如き場合に起るであらう。此の

場合の解決策は、その大なる地域を、それが恰も齊一的であるかの如く取扱ひ、併しながら、その例外的の小地域の存在及びその特徴を注意することにあらう。

此等第二次的の單元が決定せられた後には、それ等が又、それが願はしきことと思はれる場合には、更に第三次的の地理的單元に結合せられるであらう。此の第三次的の地理的單元は、更に齊一性を減ずるが、併しながら、それでも少くともその單元の廣がりの可なりの部分にまで當嵌まり、他の地域から此の地理的單元を分化せしめるに役立つ所の、ある重要なる特徴を示すものである。かくの如くにして、大陸の各は、分析的ではなく総合的の過程によつて取扱はれるであらう。最後に、全世界が調査せられた時には、大地理的地域間の比較が初められ、次いで此等の地域を群グループ若しくは類型タイプに分類することが行はれ、世界配列(World-arrangement)が現はれるであらう。此の地域類型の世界配列

は現今の自然的地域の地圖に示されてゐる如く然かく簡單なるものではないであらう。南北的に(meridionally)に區分せられた多少併行なる地帯の配列は、多分、間もなく崩落する運命を有つものであらう。何となれば、現在見る所の單純性は寧ろ虚偽のものであるからである。地球はかくの如き簡單々純なる有機體ではない。その特相は更に更に複雑なるものであり、而して科學的の仕事は決して小説的虚構的擬設的單純性へ強ひられてはならないのである。現存する地圖のあるもの建設コンストラクションの基礎をなし、それに使用せられた方法を注意深く仔細に考察するならば、その地域の群への區分の一部は、最初は、或る氣温及び降雨の條件を標識として選擇することに依據し、而して、此等の條件が一致すれば、地域は同一類型に屬するものであるとして宣言せられて居たのであることが判る。換言すれば、その世界配列は、これ等特殊の標識の寧ろ任意的なる選擇によつて、早急に決定

せられたもので、かくして、一見甚だ尤もらしき外見上の簡單さが招來せられたのである。

小地域の幾つかを一つの群に入れて大地域を得るの作業を容易ならしめるために、前者の境界は最初に處置せられた區劃として區別を立てられていいであらう。唯僅かなる差異しか呈しない地域を分離する境界は點線(dotted line)によつて、更に著しく相異なる地域を分離する境界は破線(broken line)を以て、強い對照を示す性質の地域を分離する境界は實線(firm line)を以て劃せられるがよいであらう。さて、此れ等の小地域を以て大地域を構成するに於いて、これ等點線を以て分離せられた小地域は勿論共に結合せられ、而して、新地域の境界は更に確實に劃せられた線に沿つて走るであらう。此の大なる單元の境界は、勿論、決して、既に本質的に齊一なる特性を有するものとして決定せられた小單元の中を横斷し、通過することはないであらう。

かかる綜合的方法による圖式は、より大なる地域のために望ましからざる境界を選ぶことを防ぐであらう。此の好ましからざる境界を選んでゐるといふことは、現存する此の種地圖の或るものに於ける著しい弱點である。現存の地圖では、簡單なる世界配列を得んとする願望から、終に不自然なる境界線を引くの結果を招いてゐる。かかる願望からであると解するに非ざれば、かくも不自然なる境界線を引いた理由は説明し得られない。かかる簡單なる方法による大陸の如何なる區分も批判を免れることを得ないであらう。何となれば、二人の地理學者があるとするれば、彼等がかかる方法によつては、事實を精密に同様なる筆法では見ないからである。併しながら、吾人が此處に暗示した如き方法は、かかる著しい、缺陷ある區分を不可能ならしめるであらう。

論證に於ける此の階梯に於いては、此所に提議せられたプランに對する一の反對が唱へられ

るかも知れない。即ち此所に提議せられた地理的地域 (geographical region) とは區別せらるべき、從來規定せられた如き自然的地域 (natural or physical region) なるものは、それが人間によつて發達させられるにつれて經濟的地域となる傾向を有する、それ故、此れ等の自然地域なるものは、現實の經濟的條件ではないとしてもポテンシアルの經濟的條件を指示するに役立つものであるではないかといふことが反對の立場から言はれるであらう。これに對する吾人の答へは、自然的に同様である二地域若しくは、一

地域の二つの部分が同様に發達するであらうといふことは何等確實性のあることではない、實際、それ等が同様には發達しないであらうといふ凡ゆる蓋然性があるといふことである。例へば、炭田はその地域に於いて工業的活動の或る形態を有利にするやうに思はれるが、併しなから、如何なる精密なる形態が現はれるかは豫言することが出来ない。自然は多くの發達を可能

ならしめるが、併しなから、如何なる發達が現はれるかは、計測することの出来ない人間の要因によるのである。

又、次の如き反對が提起せられるであらう。即ち、人文的條件は變化するものであるから、この人文的條件を導入することは、その地域區分をして單なる暫定的適切性しか有しないものたらしめることである、との反對である。併しながら、これに對しては次の様に答へていいであらう。即ち、人種的、言語的、宗教的要因は甚だ徐々にしか變化しない。甚だ徐々なる變化は氣候的條件についても斷言せらるべきである。又、和蘭が第十三世紀の直前の時期に於いて受けた如く或る地域の形狀すらが、計量し得べき時期の中に可なりの變化を受けることがあるが併しなから、問題となるのは、變化の存在ではなくして變化の度合なのである。變化の度合は純粹に政治的なる要因の場合に於いては最も著しい。此の場合には萬花鏡的 (Kaleidoscopic) な

る變化が起るであらう。併しながら、此の困難と雖も、政治的要因を省略するに對して何等の理由をも提供するものではない。あらゆる住民を有する地球は、ハーバートソン教授の言つた如く、一の大きな「大有機體」(macro-organism)を構成し、此の大有機體は發達し進化する。それ故、大有機體たる此の地球の特徴を記述し説明することを目的とする地理學は、その變化を考慮の中に入れなければならぬ。而して、條件を不變(immutable)と見做すことを企圖することは出來ず、又、企圖してはならないのである。反對に、地理學の目的の一つは、此の進化的觀察すること、この進化的觀察が如何なる地域に如何なる筆法で如何なる事情の下に起るかを觀察することであるべきである。若しも地理的地域なるものが、比較的急激なる變化を受ける所の要因を考慮の中に置くものならば、此の地理的地域なるものは、勿論、時々再考察再構成せらるべきであらう。而して、その結果の比較は、

大有機體」の進化の研究にとつて最も價值ある材料を提供するであらう。此の地理的地域決定法に於いて變化といふものが内屬的(inherent)であることは、克服することの出來ぬ困難を呈するといふよりは、實際は、寧ろその方法の價値を増すことであるであらう。而して、兎に角何等かの方法によつて決定せられた地域の再考察は事實に對する吾々の知識分析及び解釋に對する吾々の能力が増大するものであるとするならば、周期的に企てられなければならないのである。

以上に述べ來つた所の主なる暗示を總括すれば次の如くである。

(1) 現在行はれてゐる自然的地域の區劃は自然<sup>ナチュラル</sup>の條件の上に基礎を置いてゐる。これと共に又地理的地域なるものが自然的要因と等しく人文的要因を考慮の中に入れて區劃せらるべきである。

(2) 現在の方法は、種々なる等溫線とか等降雨

線とかの如き或る分析せられたる要素の上に基礎を置いてゐるが、地理的單元は、能ふる限り此れ等の要素やその他の要素の綜合的効果を考察することによつて得らるべきである。

(3) 地理的單元は共通なる優越的特徴を有する地域として決定せらるべきである。此れ等の及び比較的顯著でない特相も、正確に而して能ふる限り量的に記録せらるべきである。

(4) 従來採用せられた方法は全體としての世界を大なる區分に分析するが、今、吾人の提議した方法は、既に區劃せられ特徴づけられた比較的小なる地域より進んで、綜合的に、比較的大なる地域を築き上げるにある。

以上の如き圖式は、多くの、從來なされたものより以上の仕事を必要とするであらう。併しながら、それは、結合せられ、且、整序せられる努力に對する機縁を供することとなるのである。若し、異なる研究者が、その研究に對して特殊の便宜を有する諸地域を検討し、區

分し、能ふる限り正確にその特徴を指示するならば、此等の區分は整序せられ得る。かくして究極に於いては、それ等の分類と大世界配列とは確固たる基礎の上に行はれ得ることとなる。現今行はれてゐる如き、各研究者が全世界を調査するといふが如き方法は、かくの如き正確なる仕事を許さないし、充分なる批判をも協働をも許さないのである。

此の圖式は今やその主要なる考へに就いての討論を受けるために、而して、或る特殊の地域の研究を企て得るであらう所の他の研究者に對する暗示として提出せられたのである。

譯者言 以上がアンステッドの論文の要旨であるが、元來この論文は一九一六年二月十七日の英國地理學協會の午斤の會に於いて發表せられたもので、その發表後これに對する討論が行はれ、それがまた同論文の後に採録せられてゐるのである。その主なるものを茲に拾録して置くのも全く無意義ではあるまい。但し、同論文に對する賛成の論は參考となる點が少いので多くは省略することとした。以下がその討論の要旨である。

エヴァンス博士(Dr. G. W. Evans)

異なる地域の分類及び區劃の問題は、勿論大いに、その目的——そのために該分類が用ひらるべき目的——如何にかかる。余の意見によれば、地理學の大なる目的は、殊に將來の代<sup>セネレーション</sup>のために、現在に於ける地球表面上の現象の分布を記録するにあるのである。而して此の目的のために地球が區分せられる地域なるものは、記録せらるべき事實の如何に従つて決定せらるべきである。現在の動物生活の分布を記録するためには動物學的地域 (Zoological regions) なるものが存しなければならぬ。而して、これ等のものは、多くの場合、動物の異なる類<sup>クラス</sup>のためには又異ならざるを得ないであらう。

併しながら一般的目的のために、殊に人文の發達に關係して地理的地域の有用なる分類及び區劃を得るためには、吾人は比較的小なる地域から初めなければならぬ。特殊の地點をとつて出發點となし、その地方に於ける人種<sup>ロカリティ</sup>に影響する條件、例へば、氣温とか降雨とか高度とか地

表形態とかその他の比較的明瞭でない要因が注意深く考慮せられていいであらう。而して吾人がそこから何等かの方向に動くとき吾人は此れ等の條件が次第に變化するのを見るであらう。而して此れ等の變化が人間の生存に著しく影響するに充分に數多く且重要である場合には、吾人は異なる地域の中に來たと言ふも是認せられるであらう。かくの如くして達せられた地域は、その廣さ及び形態に於いて大いに異なるであらう。

又、アンステッド博士に同意する點は、吾人が廣く大いに結果によつて判斷しなければならぬと言ふ點である。或る特殊の影響は一つの地域に於いては重要ではないが、他の地域に於いては重大なる意義を有するであらうことを考へなければならぬ。

アンステッド博士によつて表明せられた意見に反對して、余は、人文的見地よりして、政治的條件並びに區分は最も重大なる意義を有する

ものであると信ずるものである。或る特殊の國土に存在する政治組織システムに従つて、その國土の發達は如何なる他の單獨の要因によつてよりも遙かに多く影響せられるのである。

ライド教授(Prof. Lyde)

地理學は内觀(Inlook)ではなくして外觀(Outlook)でなければならぬ。分析ではなくして綜合でなければならぬ。地理學の方法は、正に、アンステッド博士が吾々に要求する所のものでなければならぬ。而して吾々の意見を正確に言表はす言葉は、「或る一の選ばれたる基底ベースから出發し、徐々に動くことにより地域的綜合レジヨナル・インテグレーションをなす」といふ言葉である。

アンステッド博士の論文の中には一の小さな矛盾があつたと思ふ。即ち、此の論文の初めに於いては、彼れは、起伏や氣候や以外の要因もそれ等とは獨立のものであり、且それ等と等しい重要性を有するものであるといふことを力説してゐるが、後の方では、彼れは優越的要因を

強調することの重要なことを力説してゐるのである。彼れの言ふ如く、北東アメリカは最も多くの事項に於いて北西歐羅巴と似てゐるであらう。併しながら、それ等の事項は同等の價值を有するものではない。而して、分化的要因(differentiating factors)は東北アメリカが西北歐羅巴と同様でないことを物語るのである。即ち五〇度以北の大西洋の東の地域と五〇度以南の大西洋の西方の地域とは同様ではない。如何なる場合にも歴史は繰返さない如く地理も又繰返すものではない。彼が虚構的單純性(fictitious simplicity)に反對する如く、吾人は虚構的單一性(fictitious unity)に反對するのである。而して諸君が、諸君の大自然地域若しくは——余はこれを小自然地域(minor natural region)と呼び度いのであるが——小自然地域を綜合化し、而してそれに人文的色調カラーを附加したとしても、それによつて諸君は何を得たと言ふのであるか？ 諸君は諸君の地理的地域を有するが、併

し、それは世界の日常生活とは何等の聯合アツツシエーションをも有しないのである。それは何等の統一せられた統計的記録も有せず、又、何等の承認せられた共通の利害關係をも有しないのである。アンステッドの目的は今日の社會の情態では到達することが甚だ困難であることを吾人の經驗が暗示するであらう。

余は、アンステッド博士が、政治的單元を描くことを特殊の目的とする吾人の流派に改宗せられんことを望む。此の政治的單元を描くといふことは到達し得べきことであり、且、眞に價値あることである。吾々は殆んど到達し得られないと思はれ且實生活に於いて多くの價値を有しないと想はれるものを描かんと試みるよりは、寧ろ政治的單元を描出すことを目的とするのである。

ロクスロー (Roxby)

結局に於いてアンステッド博士が他の多くの人達の助力を得て、彼れが暗示するが如き方向

に於いて地圖を作り上げ得るであらうことを望む。併しながら、アンステッドの唱道する方法が、ハーバートソンの唱道した方法を廢棄せらるべきものであると望むものとは想像せられない。アンステッドはその論文に於いて、自然的ナチュラル地域なる呼稱は單に自然的條件ナチュラル・コンディションの意義に於ける自然的條件ナチュラル・コンディションに關係すべく意圖されるものであるか、若しくは、不自然なる境界と區別せらるべき自然なる境界によつて劃せられる地域を指示すべく意圖されるものであるかとの問を發してゐるが、余は、自然的單一性を表示するものとしての自然的地域なるものに就いて常に考へ來つた。而して、余は、種々の異なる自然的型タイプ (Pattern) の地域を考へるのである。かくの如くであるから、余としては、比較的交通の難易の意味に於ける地理的位置ポジションの觀念は自然的地域なるものの根本觀念には不屬的なものと見做すべきである。勿論、應用地理學を問題とする時にはそれも考慮の中に入れられな

ければならない。而して、<sup>フイジカル・コングリゲーション</sup>自然的條件に於いては同様であるが、世界市場に關しては異つた位置にある如き兩地域を比較すれば興味ある研究が得られると思ふ。又、人文的諸條件、これ等も自然的地域なるものの根本觀念には不屬のものである。余は見做すが、これ等も應用地理學に於いては考慮の中に入れらるべきものであるとの同様の原理が又妥當である。若し自然には同様であるが異なる人文的條件の下にある多くの地域が有るならば、それ等が相似の方向に發達するか如何かを見ることは甚だ興味あることである。若し、それ等が相似の方向に發達しないならば、人文的條件に於ける如何なる相異にそれが基くのであるかを見ることは興味のあることである。

此の見地からして、余は、自然的地域の觀念を自然的類型<sup>タイプ</sup>によつて決定せられ、自然的類型のみによつて決定せられた地域に保留することにより、吾人の得る所は大であると思考するも

のである。併し余はその他の分類の方法が同様によくはないと言ふものではない。又、ハーバートソンの「自然的地域」の分類が、採用せらるべき標識<sup>クリテリオン</sup>に關して余のなした假説の上に立つて、最良のものであるか如何かは又別個の問題である。余自身はそれは甚だ暗示的の分類であると思つてゐる。アンステッド博士はそれの若干の弱點を指摘されたが、疑ひもなく多くの變改がなされ得るであらう。要するに、余の主眼<sup>メイン・ポイント</sup>は自然的地域を純粹の自然的地域の意味にとり度いといふことであつたのである。

ワリス氏(B. C. Wallis)

種々の個々人によつて、地域の優越的特徴若しくは其の地域を他から分化せしめる特徴に従つて、或ひは計測せられ或ひは分類せられ或ひは圖表化せられる小地域の上に基礎を置く綜合的方法のアンステッドによる暗示は、その背後に綜合のなされるに先立つては多くの分析的仕事<sup>ワーク</sup>がなされなければならないことを含蓄的に意

味してゐるのである。地理學的論文の著者が彼れの研究の結果の根據とする所の資料に關し明確なる觀念を有しないことは地理學的論文に於ける一の弱點であつた。又、地理學に於ける困難は一の相似の方法が地理學の他の諸部門に適用せられなかつたことにある。同様の筆法を以て他の題目を被ふことの企てがなされなかつた。諸君は「所謂自然的地域」——そこでは自然の自然的要素が強調せられてゐる——を有つが、全く同様の筆法で分析せられた所謂「人文的地域」なるものは有しない。若しそれがなされてゐたならば、世界を綜合化することも全然不可能ではないであらう。

アンステッド博士

ライド教授は、人文的要素が、至る所優越的であるとして考へられなければならぬとするのが余の現在の態度である様に暗示したと思ふが併しながら、かかるは正しくは余の見解ではない。余は人文的要素は大いに前線に現はれて來

なければならぬ、而して或る地域に於いては優越的であると考へられなければならぬ、併しながらその他の部分に於いてはさうでもない、何となれば、或る場合に於いては自然的條件が卓越して地域の區劃を決定するであらうから、と考へるのである。

ロックスビー氏に對しては、余はハーバートソン教授その他の自然的地域を廢棄せんと欲するものではないことを明かにして置かう。余は此れ等の方法の外に余の提唱する地域決定地域區劃の新しい方法があるべきを暗示するのである。即ち自然的地域と共に、更に意味の廣い地理的地域が要求せられると思ふのである。原因の分析に關して、彼れは、交通の難易その他の要因が地域の發達に於ける相異に如何なる程度に影響したかを見るために自然的地域を示す地圖を研究するがよいといふことを暗示したが余は全くそれに同意する。而して、余の暗示したプランの上に作られた地圖は此の問題に於い

ても役立つであらうと思ふ。現實の條件を示す地圖と自然的環境を示す地圖とが比較されるれば、さうであらう。

ワリス氏は、小地域が分析的検討によつて取扱はれなければならぬことを言つたが、余はそれに同意しかねる。小地域が非常に注意深い殆んど微細と言はるべき仕事的手段によつて取扱はれなければならぬとしても、それが必然的に且排他的に分析の手段によつて取扱はれなければならぬといふことはない。凡ての氣温の條件や降雨の條件そのものを分析することは各地域に於いて必ずしも必要ではない。寧ろ、此れ等のものの結合によつて生ずる作用を發見することが必要である。

ベッキット氏(H. O. Beckitt)の通 トランスミグレーション 告

地理學的分析の過程は、勿論、元來地理學の手段であり、目的ではない。併しながら、アンステッドは分析の過程の演ずべき役割を餘りに評價しな過ぎると思ふ。又、余は、アンステ

ッドの論文が世界區分に對する他の企て、或るものはハーバートソンの仕事とは獨立の、或るものはハーバートソンの仕事の流れを汲む、世界區分に對する他の企てを考慮の中に入れてたよかつたにと思ふ。獨逸に於けるバンゼ(Dr. Bause)の企ての如きは或る程度まで、アンステッドの明かに是認する方向に従つてゐるものであるが、かかるものが例として引かれていいであらう。尙、自然的<sup>ナチュラール</sup>地域への區分の有用性に關しては、吾人は、一方、地理學者の目標は現實

的、且つ屢々一時的なる價値の評價にあるか、或ひは究極的、恒久的なる價値の評價にあるかの問題に纏はれて居り、他方、何の點まで交叉分類(cross-classification)即ち標識が質的でもあり量的でもあるが故に標識の齊一性の避け難き缺乏を有する交叉分類が如何なる點まで眞に眞理的であり人を満足せしめるものであるかとの同様重要な實際問題に着き纏はれてゐるのであることを余は想像せざるを得ぬ。アンステ

ツド博士も暗示する如く、ハーバートソンの區分に於いては、氣候的要因に優越的の重要性が與へられてゐたが、結果する所の分類の單純性——

而して余は尙ほそれに意義を附加し度いと思ふのであるが——に大なる價值を置かんとするのは余一人には止らないと思ふ。何等かの相似の圖式に於いて縁邊地 (borderland) の推移現象を取扱ふことの困難は、全世界を被はなければ

ならぬ地理學的取扱に於いては内屬的であると余には思はれるのである。

(昭和八年六月二十一日稿、九月二十七日訂正)

(1) J. F. Unstead, M. A., D. Sc., A synthetic method of determining geographical regions, *Geographical Journal*, XLVIII, 1916, p. 230—249.

(2) A. J. Herbertson, The major natural regions: An essay in systematic geography, *Geographical Journal*, XXV, 1905, pp.

## 巨椋池の湖岸變遷と干拓事業 (上編一)

吉 田 敬 市

### 一、緒 言

山城盆地の中央に横る巨椋池は水面積約八百町歩に過ぎない一小湖である。然し往古は現時に數倍する大湖であつて、或は淀川洪水調節用

となり、或は交通上・漁業上の利用は勿論、古くより詩繪の題材となり、水生植物の寶庫として、其の利用影響は實に甚大であつた。然し古來氾濫浸水すること頻繁にして、沿岸の被害亦測り知るべからざるものがあつた。内務省土木